

岩手県立黒沢尻北高等学校
海外交流事業

HABATAKE! 黒陵

第3回派遣 報告書



Meet the Mayor at Concord City Hall (March 29, 2019)

派遣先：カリフォルニア州コンコード
派遣期間：2019年3月27日(水)～4月3日(水)

今回の研修で感じたこと、学んだこと

2年1組 仲條 菜
(ソフトテニス部)

私は3月27日から4月3日まで「HABATAKE! 黒陵」に参加しました。私が今回このプログラムに参加しようと思った理由は、実際に海外に行くことで日本の文化との違いを肌で感じ、自分の視野を広げたいと思ったからです。またこの研修を通して、将来の選択肢を増やし、可能性を広げたいとも思ったからです。

私はこの研修をより良いものにするために「挨拶」を心がけました。たとえ言語が異なっても、挨拶をすることは世界各国共通で大切なことだと思ったからです。人と会ったときは目を見て少し笑顔で挨拶をする、それを心がけただけでも言葉の壁というものが少しなくなったように感じました。また、挨拶をしたことで緊張が少し柔らぎ、自分から積極的に会話を楽しむことができました。普段の学校での生活がこのような普段とは違う外国でも通用したことで、挨拶の大切さを改めて感じ、自信を持つことができました。

私は今回の研修で多くのことを学びましたが、その中でも特に印象に残っていることは3つあります。

1つ目は、人の心の温かさは世界中で皆、同じように持っているということです。ホームステイ先では私たちを本当の家族のように受け入れてくれました。感謝の気持ちを伝えるときの“Thank you.” “You’re welcome.”のやりとりは日本よりも多いと感じました。小さなことですが、道路を渡ろうとしたときに車が止まってくれる、エレベーターに乗ったときに降りる階を確かめてボタンを押してくれる、そんな時にも“Thank you.”の言葉がありました。このことから、人の優しさは日本人、アメリカ人という国籍に関係なく、どこにいても変わらない大切なことだと私は思いました。またコンコード市のアンバサダーの方がおっしゃった「私たちは話す言語が違うだけよ。」という言葉も胸に響きました。実際にアメリカに滞在中、現地の方の話している言葉が分からないという

ことが多々ありましたが、優しさは感じることができました。この経験を元にこれからも今まで以上に周囲の人への心遣いを大切にしていきたいと思います。

2つ目は積極性です。私は滞在中、常に能動的な行動を意識して生活しました。すると私の予想以上に質の高い多くの経験をすることができました。何事にも自分から行動していくことが自分自身を成長させると感じたので、これからの日常生活でも実践していきたいと思います。

3つ目は環境問題についてです。私は実際にアメリカに行く前は、アメリカとはただ単に食料廃棄の多い国、というイメージを持っていました。しかしそれは違いました。確かに1つの料理の量は多く、残して捨てることもありましたが、環境問題に対する取り組みも多く行われていました。例えば、大学構内にあった服や靴をリサイクルできるリサイクルボックス、節水を呼びかける貼り紙、「無駄をなくそう」と書いてあるフラッグなどです。特に節水を呼びかける貼り紙は、私たちの泊まったどのホテルにもあり、環境に対する関心の高さがうかがえました。アメリカは課題がある分、対策にも力を入れているのだと思ったのと同時に、日本でもさらに対策を行うべきだと考えました。だから私はこの経験を活かして、環境問題への対策を考え、実践していきたいと思います。

私は今回の研修を通して、日本では経験できないような様々なことを経験してきました。そのどれもが私にとって貴重な、かけがえのないものです。その経験を活かして世界へ羽ばたける、そんな人間になれるよう、これまで以上に1つ1つ努力していきたいと思います。

最後に、私たちのためにご尽力下さった方々、本当にありがとうございました。



アメリカの空気を吸って

2年2組 佐藤 隆之介
(バレーボール部)

「百聞は一見に如かず」

私が今回の「HABATAKE! 黒陵」に参加したいと考えたきっかけは、大学入試に備えて、英語のスキルを少しでも上げたいということ、そして海外の人との貿易の仕事の際に、より効率的に仕事を行いたいというものからでした。しかし実際に海外に行って、今までに体験したことのないようなことと出合っていく打ちに、大学は人生のゴールではないということや、自分の将来への進み方は何通りでもあるということに気づかされました。

今回の旅で印象に残ったことは第一に、ミステリースポットという場所に行けたことです。そこで私はある女性に出会いました。その女性は私たちのミステリースポットのガイドをして下さった方です。とてもユニークで、英語の力がまだ不十分な私でも楽しむことができました。私は「英語が分からない私たちですら楽しませるなんてすごい!」と感じると同時に、「もっとネイティブな英語を習得していたら、もっと楽しめただろう」という悔しい気持ちも生まれました。

また、ミステリースポットでは、ある一つの可能性を見つけることができました。それは私自身が英語を勉強し、留学先でガイドのバイトを行うというものです。もしも日本人がそこに来てくれたときに「海外最高だったね!」と思ってもらえるよう、少しでも手伝いをしたいと考えるようになったのです。そこで、日本人に更に海外を理解してもらうために、2つ目の言語をしっかりと習得し、可能性を実現させたいです。

次に、アメリカの人たちの会話です。アメリカの人たちの話を聞いていると「ありがとう」や「どういたしまして」などという言葉が多く聞かれました。日本でも「ありがとう」や「どういたしまして」は言いますが、アメリカにいるときほど聞きません。アメリカの人たちに「ありがとう」や「どういたしまして」を言われるのは、とても気持ちがよく嬉しかったです。この

経験を日本でも活かし、人とのつながりを大切にしていきたいです。

今回の旅で一番印象的だったことは、ホームステイです。私のホームステイ先はリックとエワというご夫妻の家でした。二人はとてもアクティブで、私を様々な場所へ連れて行って下さいました。連れて行ってもらった場所の全てで、日本で体験することが難しいことを体験させていただき、とても新鮮に感じました。ホーネットという戦艦はとても感動しました。この船はあの有名なアポロ 11号が月から帰還した際に回収した船だということを聞き、とても驚き、またとても貴重な体験をしているということを実感しました。

ホストファミリーとの会話は、基本的に伝えたいことは伝えることができました。しかし、会話中に肯定文を疑問文に換えることや、特殊な文法など、普段授業でできていることを実際に使うことがとても難しく、ホストファミリーをたびたび困らせてしまいました。次にホストファミリーに会えるのは10月です。その時まで実践的に使える英語を勉強し、ネイティブに近い会話を行いたいと思います。

ホストファミリーとの別れの際に、ホストマザーがハグしてくれました。それはとても温かく、私は涙をこぼしそうになりました。この温かみと経験を自分の一生の宝物とし、今後の成長の糧としたいです。

今回の研修のメンバーは先輩も多く、上手くしゃべることができるか心配でしたが、どの先輩もとても優しく、私を温かく受け入れてくれました。今まで知らなかった人と話すことで、新しい発見や、共通の趣味を見つけることができ、とてもメンバーに恵まれたと思っています。

最後に、私たちをサポートして下さいました赤崎先生、薄衣さん、岩瀬さん、そして同窓会の皆様、保護者の皆様、ありがとうございました。



海外研修を通して

2年3組 松長 賢都
(放送部)

私は、3月27日(水)～4月3日(水)までの8日間「HABATAKE!黒陵」の海外派遣事業に参加しました。この事業が成功できたのは、私たちを支えて下さった同窓会の方々、PTAの方々、先生方、北上市国際交流協会、そして両親の多大なる理解と協力があったからです。本当にありがとうございました。皆さんのおかげで、この8日間がとても実になる研修となりました。

・志望目的

今回、私が「HABATAKE! 黒陵」に応募した目的は2つあります。1つ目は、海外に行くことで、語学力の必要性をさらに理解したいからです。2つ目は、現在、世界に最も影響力のある国、アメリカについて、実際に目で見て体験することで、正確に知りたかったからです。

・ホームステイ

私は、ホームステイはおろか、海外にも行ったことがなかったので、正直ホームステイはかなり不安でした。しかし実際に行ってみると、ホストファミリーは私分からないことを優しく教えて下さり、楽しく貴重な体験をすることができました。ホストファミリーの話す英語はとても速く、聞き取ったり返答したりすることが難しく感じる時もありました。それでも何とか楽しく過ごすことができたのはこのホストファミリーのおかげです。

さらにホストファミリーのおかげで、アメリカを知るという目的で、有名観光地であり、映画のモデルともなっているアルカトラズ島を見学することができました。元刑務所ということもあり、ただならぬ雰囲気を感じました。また、アメリカではやっているスポーツとして、アイスホッケーの試合を観戦することもできました。選手同士の接触が欠かせないスポーツですので、何度も乱闘が起こっていました。乱闘が起こると観客は皆立ち上がり、楽しんでいるように見えました。

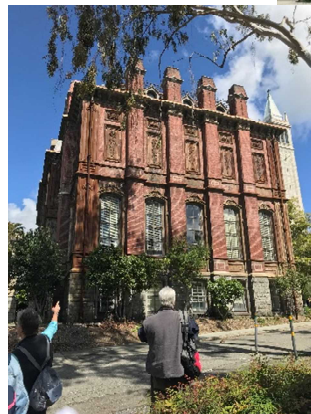
その部分には驚きましたが、すぐに応援に戻り、老若男女問わず、大きな声で応援している姿を見て、アメリカ人は素直で素晴らしい、と感じました。

・大学見学

私は今回ホームステイでの経験を含め、5つの大学や施設を見学しました。どの大学も個性ある大学であり、新鮮で魅力的でした。特に私が大きな印象を受けた大学は、カリフォルニア大学バークレー校です。町中にあるのに、とても広くて緑豊かな大学です。学力は、世界でもトップクラスで、数々の著名人を輩出しています。ずっといても飽きなさそうな、美しい大学でした。

・英語に対する考え方

私はこの研修に参加するまで、英語を勉強するのは大学入試のためである、と考えていました。しかし今回アメリカに行ったことで、英語というのは言語であり、海外で生活するには必要不可欠だという考えに変わりました。そしてそれは英語に限らず、全ての言語について言えることだと思います。コミュニケーションを取れるということはとても幸せなことだと、私は深く感じました。



海外研修を終えて

2年3組 村松 篤
(バレーボール部)

私がこの海外研修に参加しようと思った理由は大きく分けて2つあります。1つは日本とアメリカの文化を比較したかったため、もう1つは自分の英語を使ってのコミュニケーション能力の向上を図るためです。しかし実際はこれらだけでなく他のことについてもたくさん学ぶことができました。

まず私がアメリカで一番印象に残ったのはホストファミリー宅でのホームステイです。ホームステイでは同伴の先生もおらず、自分たちの英語でしかコミュニケーションを取る手段がないため、自分の英語力の低さを痛感させられました。アメリカに行く前は、分からない英単語や表現は簡単に携帯で調べることができるので大丈夫だと思っていましたが、実際にそれらが会話の中に出てくると、調べるたびに会話が止まってしまう、コミュニケーションをスムーズに取ることができませんでした。逆に知っている単語がたくさん出てくると、文法が分からなくてもだいたいの意味は捉えることができました。これらの経験を通して、何でもすぐに調べられるようになった今日でも、英語の勉強、特に英単語は重要だということを学びました。

約5日間アメリカで過ごす中で、アメリカと日本の文化の違いを実際に見たり、経験したりすることができました。私が日本とアメリカの一番大きな違いを感じたのは、見せ員の接客の仕方です。日本は礼儀を重んじる国なので、客と店員との関係では、客の方が立場が上、というような風潮があります。しかしアメリカ人は、人柄がとてもフレンドリーなので、客と店員が初対面であってもお互い仲良く話していて、働いていてとても楽しそうでした。また、海外研修が始まる前まで、アメリカは宗教をとっても重要視している国だというイメージを持っていましたが、ホストファミリーの家にはインドの神様の絵が飾ってあったり、日本の文化にまつわるものが飾ってあったりしたの

で、宗教に関しては割合寛容な家もあることを知りました。

今回の「HABATAKE! 黒陵」のアメリカ研修全体としての目的は、姉妹都市である北上市とアメリカのコンコード市との友好関係を深めることにありました。これまで北上市とコンコード市は姉妹都市提携の5周年ごとに相互訪問し、親善交流をしてきました。そして今年は姉妹都市提携45周年です。しかし北上市とコンコード市が姉妹都市だということは、北上市民のほとんどが知らないかもしれません。これからは北上市とコンコード市の関係をさらに多くの人に発信していく必要があると思います。その一歩として自分は、北上市とコンコード市との交流に積極的に関わっていきたいです。

今回の研修を通して、新しい発見や、自分にとっての課題がたくさん見つかったので、今後それらを活かし、実行していきたいです。最後に今回この研修に関わり、協力して下さった全ての方々に感謝申し上げます。



百聞は一見に如かず

2年6組 竹花 滂蘭
(卓球部)

私が今回「HABATAKE!黒陵」に参加したいと思った理由は2つあります。1つ目は、将来の目標達成のために世界の共通言語である英語を学び、その言語から生じる思考過程や価値観を今のうちから知っておきたいと思ったからです。2つ目は、実際に外国人とコミュニケーションをとり、今の自分の英語力を確認するとともに自分自身のスピーキング力を向上させたいと思ったからです。

私が今回の研修で感じたこと、学んだことを簡単に述べさせていただきます。

まず、アメリカの大学についてです。私たちは2校の四年制大学と1校の二年制大学を訪問しました。アメリカの大学を実際に訪れるまでは、日本とアメリカの大学は大きな差はないだろうと思っていました。しかし私の予想に反し、相違点がたくさんありました。初めに私が驚かされたのは大学のスケールの大きさです。特にカリフォルニア大学の2つのキャンパスはとても大きかったです。ただ大きいだけでなく、個々のキャンパスに特徴がありました。最初に訪れたのはカリフォルニア大学サンタクルーズ校です。ここは、周囲を緑に囲まれた広大なキャンパスで、構内には図書館や寮、さらに牧場や森林、植物園がありました。ほとんどの学生が寮で生活しており、学生間の交流も深められると思いました。次に訪れたカリフォルニア大学バークレー校は、サンタクルーズ校とは異なり、都市の中にありました。ここは150年以上の歴史を持つキャンパスでアメリカの中で有数の名門校です。バークレー校から100名以上のノーベル賞受賞者が輩出されていることに驚きました。また大学には日本人の姿もあり、海外の大学というのも自分にとって全く別の世界ではないのだと感じました。売店には、日本のお菓子やカップヌードル、お寿司などが売られていて、日本とアメリカは繋がっているのだと感じました。二年制の大学のDVC (*Diablo*

Valley College) は、サークル活動がとても盛んで、学習だけでなく学校生活も満喫できると思いました。またキャンパス内に服や靴を回収するリサイクルボックスがあり、環境に対する意識が高いと感じました。インターネットの情報だけでは知ることができないことを、自分の目で見ることでできてよかったです。

次にホームステイについてです。私はアメリカの人は自分の意見を強く持っていて、その考えを強く主張してくるような人ばかりだと思っていました。そのため、ホームステイに不安を感じていました。しかしホストファミリーの方たちの方から私の話を聞こうとして下さったり、私の拙い英語を理解しようとしてくれました。私はこのことがとても嬉しかったです。だから私はもっとたくさん話をしたい、自分の気持ちを伝えたいと思い、積極的に会話をしました。その会話の中で私が心に残っているのは、アメリカの人は“Thank you”という言葉がたくさん使っていたことです。「ありがとう」の意を伝えることは、日本でもアメリカでも大切なのだと分かりました。私も細かいところに気を配り、一つ一つのことに“Thank you”いうことを忘れないように心がけました。さらに、Yes, No の意思をはっきり伝えることも重要なのだと分かりました。私は普段の会話で表現を曖昧にしてしまうことが多いので、相手に迷惑をかけないように、意思をしっかりと伝えることを特に意識して過ごしました。私はアメリカの文化を肌で感じ、日本とは少し違う文化の中楽しさを感じ、新たな文化を知ることができたことを嬉しく思いました。しかし、どんなに頑張っても何度か会話の中に「間」が生まれてしまうことがありました。それは私の英語力の不足から生じるものでした。相手の英語が理解できなかったり、自分の思いを伝えるための語彙が見つからなかったりしたためです。このとき私は自分の英語力の低さを痛感しました。それと同時にもっとコミュニケーションを取りたいのにできないことへの悔しさを感じました。普段の授業でインプットした内容は、ただ覚えるのではなく、実際に使える力を身に付けていくべきだと思いました。

今回の研修を通して初めて、北上市の姉妹都市がアメリカのコンコード市であることを知りました。しかも、その歴史は長く、今年で45周年を迎えます。今までも多くのイベントが行われていたのに、全く知らなかったことに、北上市民として恥ずかしさを感じました。コンコード市の方々は、私たちが快く迎えて下さいました。明るい方がたくさんいらっしゃいました。また日本や北上市にとっても興味を持っていました。北上市にはコンコード市について知らない人が多いと思うので、コンコード市の魅力を伝えたいと思いました。私はコンコード市の方が「日本は安全で衛生的だ」とおっしゃっていたのが印象に残りました。普段過ごしている町だと、そのことが当たり前になってしまい、その土地の良さを見逃していることに気づきました。確かにアメリカの都市部では、ゴミが落ちているところが日本よりも多いと感じました。2020年の東京五輪では、日本のサービスだけでなく、街の様子も海外の人の目に写ります。「日本」というイメージの中に残ると思うので、今のきれいな状態を保ちながら、むしろ今よりもきれいな町にしたいと思いました。アメリカに行って、日本の良さを再認識することができてよかったです。

アメリカでの生活は日本とは違うところもありましたが、楽しく充実した日々を送ることができました。私はこの研修に参加できると決まったとき、嬉しさと同時に不安も募りました。それは、自分の英語力で現地の人とコミュニケーションが取れるのだろうか、アメリカでの生活を楽しめるのだろうかという思いでした。でも自分自身がいろいろなことに興味を持って、見たい、聞きたい、知りたいと感じると、いつもよりも積極的に話すことができました。さらに私が出合ったアメリカの方々は、私が英語を聞き取れるようにとゆっくり話して下さいました。このような皆さんの優しさがあつたから、私は自分から話すことができたような気がします。この経験から、言語が違う国の人と話すのは、完璧に英語ができないとだめだ、という思い込みは少し違うと思いました。私は英語が得意というわけで

はありませんが、自分が今まで習った単語に置き換えたり、遠回りでも自分の伝えたいことを何とか伝えようとすると伝わる、という経験をたくさんしました。私は「英語は難しい」という先入観は捨て、「英語は楽しい」という思いで勉強していこうと思います。今回アメリカに行って、今後機会があればまた海外に行きたいと感じました。グローバル化が進む現在、日本だけでなく、世界と関わっていくことも必要になってきています。その中で、日本でテレビやインターネットから入ってくる情報だけを見て、外国への考えを決めるのではなく、自分の目で見て、肌で感じることで、また新たな視点からその国の良さや課題を知ることができると思いました。

この1週間を通して、人とコミュニケーションを取ることの楽しさ、日本以外の文化に触れることのおもしろさ、そして英語の重要性を改めて実感しました。これからはもっと自分から積極的に話したり、英語学習に力を入れていきます。

最後に、今回の研修の計画、運営にご協力して下さいました同窓会の先輩方、PTAの皆様、先生方、地域の方々々に心から感謝申し上げます。多くの方々のご協力、ご支援のおかげで、将来の夢への第一歩となる貴重な経験をすることができました。この経験を活かし、言語の枠を越えて、これからの社会に貢献できる人材になります。

本当にありがとうございました。



海外派遣研修を終えて

3年1組 高橋 麻里奈
(茶華道部)

私は3月27日から4月3日まで「HABATAKE! 黒陵」の研修に参加させていただきました。この研修は私にとって初の海外渡航、飛行機も初体験でした。研修は本当に新鮮で有意義なものとなりました。

私がこの研修に応募した理由は3つありました。主にその目的に沿って学んだことを簡単に綴らせていただきます。

1つ目は、英語圏の大国アメリカで自分の英語力を試し、自分の弱点を知ることです。飛行機を降りてすぐ、厳しい入国審査がありました。現地の人の英語はとても速くて、リズム感があり戸惑いました。学校で習う教科書中心の授業、テスト向けの筆記の勉強では全然通用しませんでした。私は小さい頃から英会話教室に通っていて、試験のリスニングは得意でしたが、気づかぬうちに“*Yes.*” “*No.*”ばかりが口から飛び出し、笑顔でその場しのぎばかりをしていました。それでも現地の方はとてもフレンドリーで私たちに質問してくれたり、自分の知っている日本のことについて話してくれたりしました。だんだん慣れてくると、相手に質問を返すこともできるようになり、アメリカンジョークもおもしろいと感じるようになりました。アメリカは多民族国家で、優しい人が多く、見知らぬ人とホテルのエレベーターですれ違うときですら、笑顔を交わし合っていました。これからの英語の勉強では、テキストに付いてくる音声データを有効活用し、積極的に英語を使う機会を作らなければならないと思いました。



2つ目は、アメリカの陰の部分を見て学ぶことです。去年私が参加した岩手県のディベート大会は、安楽死がテーマでした。その際各国の実情を調べたのですが、アメリカの社会保障制度は整っていないという事実を知り、貧富の差等にも興味を持ちました。実際、サンフランシスコのユニオンスクエアでは、ホームレスの人がいる一方、ブランドものばかりを身に付けて歩いている人もいました。ホームレスの中には、子ども連れの母親もいて、胸が痛みました。またアメリカは、人種の異なる人を銃で撃つ、危険な国、というイメージが私にもありました。実際、通りでホームレス同士が大声でけんかするのを見たときは、怖くてたまりませんでした。現地の日本人ガイドの方は、彼らにも縄張りがありその縄張り争いが絶えないこと、また貧しい人のために食事を提供してくれる施設があってもその施設には行かず敢えてホームレスとしての生活を選択する人もいるということを教えてくださいました。ホームレスであっても、貧しくても、自分のしたいことを貫き通す生き方があるのだと知りました。

また、UC サンタクルーズ校を見学した際、寮に入るお金がない人向けにキャンピングカーを開放している場所を訪れました。アメリカの大学は1年分の学費が日本での2、3年分の学費に相当するそうです。学生ローンはいずれ返還せねばならず、借りることをためらう学生も多いそうです。キャンピングカーの区域は、個性的なもので装飾しておりカラフルで、異空間のようでした。アメリカの学生たちは、一人ひとりが個性を大事にしています。日本の一流大学はどちらかというと、限られた天才肌の学生か、猛烈に勉強した学生が通うというイメージがありますが、サンタクルーズ校の学生は、自分の道をとことん追求





し、目的の達成に必要なことを大学で学び、活かしている感じがしました。私は勉強に集中できないとき、周囲の環境を理由にしてしまうことがあります。でも彼らの生活を見て、勉強の捉え方が180度変わりました。よい大学に行ってよいところに就職することが全てなのではなく、人生で自分がしたいことを思いっきりするために勉強が必要だ、ということに気づきました。また机に向かってすることだけが勉強なのではなく、友だちとの会話、旅行など身の回りで起こった全てのことが勉強だと思いました。これからは積極的に楽しく、生涯かけて学習をします。

3つ目は、高校生の今、外国に行って世界を知ることです。私が一番体験できてよかったと思ったホームステイについて書かせていただきます。私は自分の英語力の低さを痛感し、現地に着いてからずっと、上手く話すことができませんでした。せっかくの機会を無駄にするのではないかと心配ばかりしていました。でもホームステイ先に着いてみると、日本のようにホストマザーがお茶を入れて、豆菓子を出して私たちを迎えてくれました。ホストファーザーは日本人のルーツも持つハーフの方で、少し日本語を話すこともできました。ホストマザーは日本語を勉強中ということで、家の至る所に富士山の絵が掛けてあり、日本が大好きという雰囲気が感じられました。また、茶



道の道具のセットもあり、私は最大限脳を働かせ、説明をしながら、茶道を披露しました。ホストファミリーは、貴重な体験だったと本当に嬉しそうでした。また、二人ともお互いに身体をいたわり合い、家事は分担していました。男性と女性で仕事にはほとんど違いはないことを聞きました。私たちの英語力不足のためつたない英語での会話となりましたが、北上や日本食の話、学校や家庭のことをこちらから伝えることができました。また現地のスーパーにはオーガニックフーズが多いこと、気になっていた社会保障のこと、日本に来たときのことなど、気づいたことはすぐに情報交換をしました。私は外国に行って、こんなにも外国人が日本の伝統や文化に興味を持っていてくれることに、本当に驚きました。1日がとても速く、でも本当の家族のように仲良くなれるのもあっという間でした。気づいたら別れの際に泣いている自分がいました。



私はこの研修を通して、固定観念は本当に怖い、だから自分で赴いて、自分の目で現実を見なければ始まらない、ということを学びました。私は将来、オリエンタルランドやウォルト・ディズニー関係の仕事に就職し、国をまたいで活躍する仕事をしたいと考えています。この高校生の時期に、多民族国家で短い間でも生活し、学べたことは、私にとって貴重な経験となりました。

一緒に行けた最高のメンバー、旅行中に出会った方々、このような機会を作って下さった北上市とコンコード市の方々、先生方、PTAや同窓会の皆様、家族など協力してくれた全ての方々に心より感謝申し上げます。この経験を絶対に将来に活かします。本当にありがとうございました。

海外研修を終えて

3年2組 後藤 雅奈
(剣道部)

私は今回の「HABATAKE!黒陵」に参加して、想像以上の貴重な体験をすることができました。この海外研修に参加を希望した理由は、自分の中の価値観や視野を広げるよいチャンスだと思ったからです。私は将来、日本だけでなく世界で働きたいと考えていました。そのために世界の中心であるアメリカに行くことはよい勉強になると思いました。

アメリカに足を踏み入れて感じたことは日本よりも全てにおいてスケールが大きいということです。食事の量や家の大きさ、大学の規模、道路が十車線以上あること、とにかくたくさん衝撃を受けました。ずっと行きたかったサンフランシスコの町並みはとてきれいで感動しました。アメリカは人種のるつぼと言われていて、様々な人種の人々が共存しており、さすが経済大国だと思いました。私にとって見るもの全てが新鮮で感銘を受けました。

私たちは北上市と姉妹都市の関係にあるコンコード市に行きました。コンコード市は1974年から姉妹都市として、北上市と様々な交流を重ねてきたことを知りました。今回私たちもその交流事業の一環としてコンコード市を訪問し、ホームステイをさせていただきました。何も分からない私たちのために様々な力を尽くしていただいた、北上市国際交流協会の薄衣景子さんには大変感謝しております。北上市とコンコード市が現在のような良好な関係を結べているのは、薄衣さんの尽力のおかげです。コンコード市のような素晴らしい都市と姉妹都市という関係でいられる



ことは、北上市の市民として、光栄なことだと思います。

初めに市役所を訪問し、そこでの手厚い歓迎に驚きました。私たちのような者にあれほどの歓迎をしていただき、恐縮しました。コンコード市の方々はとても優しい方ばかりでフレンドリーでした。私は英語で話すことが得意ではないので、初めは不安で胸がいっぱいでしたが、ホストファミリーはそんな私たちに片言の日本語で話しかけてくれてとても嬉しく思い、緊張も徐々にほぐれていきました。ホストマザーとはショッピングに行き、ファーマーズマーケットや図書館などでアメリカの文化に触れることができました。ホストファーザーは日本人とハワイ系アメリカ人のハーフの方で、何回か来日もしていて、日本のことが大好きな陽気で明るい方でした。二人は日本の文化に憧れを持っており、一緒に宿泊した友人が茶道部で茶道を披露したところ、とても喜んでいました。また、私は剣道部なので剣道の試合の動画を見せたところ、とても興味を持ってくれて嬉しかったです。二人と犬のコーディと過ごした時間は私にとって大切な思い出になりました。私の拙い英語でも一生懸命聞いてくれて、理解しようとしてくれて、とても嬉しかったです。しかしお別れの時、本当はもっと感謝の気持ちを伝えたかったのに、自分のふがいない英語力のせいでそれができなくて悔しかったです。英語力があればもっと深い話をする事ができたのに、と思いました。こんな思いはもうしたくないので、もっともっと英語を勉強しようと思いました。ネイティブの英語は、日頃聞いているCDや日本人の英語と違ってすごく速くて聞き取れなかったです。リスニングの勉強の重要性がよく分かりました。これは私の課題です。



私が今回アメリカに行って一番感じたことは、アメリカ人は日本人とは違って意思表示がはっきりしているということです。日本では遠慮することが謙虚で美德とされていますが、アメリカでそれは通用しません。自分の意思を Yes か No ではっきり伝えないと分かってもらえないのです。人種や国によって価値観の違いがあることがよく分かりました。私は積極性に欠けるところがあるので、日本では大丈夫でも海外では通用しないと思うので、今後は積極性を身に付けたいです。

今回の海外研修を終えて、私は大学生になったら留学をしようと決意しました。外国の文化にとっても興味を持ったし、もっと多くのことを学びたいと思ったからです。大学でもっと英語力を上げて将来的にはグローバル化した社会に貢献できるようになりたいです。これからの日本は、少子化が進み、本格的な人手不足に陥り、海外からの労働力に頼らなければならない時代が来るでしょう。大企業のみならず中小企業までも、様々な国の人々が働くことになると思います。そのような社会の中で対応できるだけの学力、英語力、積極性を身に付け、人と人をつなぐ橋渡しができるだけよいと思います。

最後に、この研修で出会えた志の高い仲間、コンコード市の方々、先生方、全ての人に感謝します。また支援して下さいました方々にこのような機会を作ってくれたことを、心より感謝申し上げます。

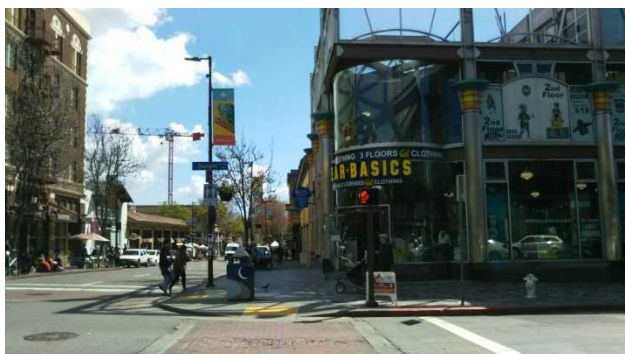


海外研修を終えて

3年2組 齋藤 奏
(剣道部)

私が今回「HABATAKE!黒陵」に応募した理由は、日本とは言語も文化も異なるアメリカで自分の語学力、行動力を試したいと思ったからです。メディアからの情報に頼らず、自分の肌でアメリカという国を感じたいと思いました。実際に現地での施設見学や人との出会いから、多くのことを吸収することができました。

アメリカに滞在した5日間で、3ヶ所の大学キャンパスを見学しました。日本と異なり、どの大学も自然



豊かで自由な環境がありました。私が特に魅了されたのは、カリフォルニア大学サンタクルーズ校です。このサンタクルーズ校は天文学で NASA との共同研究を行うなど、世界から高い評価を得ています。山に囲まれ、豊かな自然に恵まれたこのキャンパスは、開放的かつ生徒が主体的に作り上げているような雰囲気を感じました。敷地面積が東京ドーム約 171 個



分に相当する広大なキャンパスは、自然と一体化しているようでした。キャンパス内の植物園では日本では見られないような草花が育てられ、木からもぎ取って食べたオレンジはとても甘くてみずみ



ずしく、気づけば大学にいることを忘れ、まるでハイキングをしているような清々しい気分になりました。また、歩いていて頻繁に見かけた建物の壁に描かれた斬新で鮮やかなアートや、存在感あるユニークなオブジェの多くは、生徒がデザインから制作まで手がけているそうです。そのことに驚くと同時に、生徒の想像力あふれる自由な環境で、自分の探求を深めていることに憧れを感じました。日本とは異なる自然豊かで自由な環境はとても新鮮でした。

そして私にとって大きな試練でもあり、楽しみでもあったのが2泊3日のホームステイです。自分の持っている語学力の全てをフル活用し、たくさん話しよう決めていました。土曜日にホストマザーがショッピングに連れて行ってくれました。賑やかな町並みや、おしゃれなカフェテラス。どこを見ても新鮮でした。店員さんはとても優しくフレンドリーでした。店員と買い物客という関係に固定されず、友だちのように会話を楽しみながら買い物をするアメリカのスタイルは、とても気持ちがよかったです。固定概念にとらわれなければ、物事がこんなにも楽しくなることに感動しました。その夜はホストファミリーとたくさん話をしました。特に彼らが感動してくれたのは、日本の「お





盆」の話です。日本ではお盆にお墓詣りをしたり、松を燃やして先祖を祈ります。仏壇に飾られる箸を刺したきゅうりは馬を、茄子は牛を表し、「早くこちらに帰ってくるように」、「お土産をたくさん持って安全に天国に帰れるように」と、それぞれが先祖とこちらを繋ぐ乗り物として作られます。アメリカには日本のように先祖を一齐に祝う習慣がないので、「それは素晴らしい文化だね」と感動してくれました。このように、お互いの文化のよいところを褒め合ったりなど、感じたことを素直に言葉にすることができました。国も文化も異なる者同士で言葉のキャッチボールをし、相手の文化だけでなく自国の文化の良さも再発見することができ、とても充実したホームステイでした。



このアメリカでの5日間、たくさんの人との出会いに恵まれました。異国から来た私たちを盛大に歓迎し、受け入れて下さいました。自国の文化を誇りに思う愛国心、また他国の文化を受

け入れ、尊重する寛容さは、私たちが学ぶべき姿だと感じました。日本では遠慮や謙遜が一種の美德とされています。しかしアメリカでは自分の考えを持ち、素直に述べることを大切にしています。大学でこのような言葉を目にしました。「素直になりなさい。言葉より行動がものを言うから。」この言葉が表すように、「異文化理解」と言葉では述べていても、実際に行動し、現地の文化を体験して初めてよさが分かるのだなと感じました。皆さんがメディアから想像するイメージとは全く異なります。アメリカはとても素晴らしい国です。その文化を体験できた者として、お互いの中にある文化の障壁をなくすために貢献していきたいと思っています。

最後に、私たちがこのような貴重な体験をすることができたのは本当に多くの方々のご支援があったからだと思っています。ご協力いただいた全ての方々、そしてこの研修を何倍も楽しくしてくれたメンバーに、心から感謝しています。この研修で感じたこと、吸収したことを忘れずに、大きく広がった視野と考えを大切に、絶対に将来に活かしたいと思います。本当にありがとうございました。



「HABATAKE! 黒陵」海外派遣プログラム

3年3組 中館 遼子
(写真部)

私は3月27日から4月3日までの8日間、「HABATAKE! 黒陵」の海外派遣プログラムに参加いたしました。私が今回、海外派遣研修に参加しようと思った理由は2つあります。1つ目は、外国に行くことで、日本の文化との違いを知り、それによって自分の視野を広めたり日本のよいところ、あるいは直さなければいけないところを知りたいと思ったからです。2つ目は、私にはしっかりとした将来の目標がないので、外国に行って新しい考え方を知ったり、体験することで何かに興味を持ち、自分は変われるのではないかと思ったからです。

・アメリカと日本の違いを感じた出来事

アメリカに行って、日本との大きな違いを感じた出来事が2つあります。1つ目は、2日目に行ったミステリースポットでのことです。ミステリースポットは山の中にあり、そこで私たちは重力の不思議な力を体験できるというものだったのですが、私たち以外の外国人は積極的に立候補して体験の意思を表明していました。ミステリースポットの職員に私たちが指名されたとき、少々まごついてしまい、ガイドさんにもせかされて、恥ずかしい思いをしました。外国人の観光客が不思議そうな目でこちらを見ていたのもつらかったです。日本では遠慮するのがよいことだと思われていますが、外国では遠慮してはいけないと分かりました。2つ目は、買い物をしているときです。アメリカ人は早口で“Do you wanna bag?”と聞かれてもよく分からず、もう一度聞き返しても何と言っているのか分からなくて混乱したときがありました。日本の場合、相手の状況を見て自分からゆっくり分かりやすく話したりしますが、外国ではしっかり聞き手がどうしてほしいのかを要求しないと伝わらないということが分かりました。

私は日本の持つ独特な考え方があまり好きではありませんでした。しかしアメリカに行ってアメリカの良

いところも悪いところも知ることによって、日本の、やはり直した方がよい考え方に気づき、またよいところを再発見することができました。

・3日間のホームステイ

私たちは3日目からホームステイをしました。私たちを受け入れて下さったホストファミリーはとても優しい方々で、初めて会ったのに、家族のように接していただきました。国や人種が異なっても、人を思う気持ちはどこに行っても変わらないものだと感じました。

今回の「HABATAKE! 黒陵」を通して、私は大きく成長することができました。この体験は一生忘れられないものになると思います。支援して下さいました方々、本当にありがとうございました。



HABATAKE! 黒陵

3年4組 本庄 智裕
(卓球部)

私が「HABATAKE! 黒陵」に参加したいと思った理由は2つあります。1つは自分の感じたことのない未知の世界を実感したいと思ったからです。新しい世界を肌で感じることで新たな発見や知識が増え、視野が広がると考えたからです。2つ目は、自分を変えるきっかけにしたいと思ったからです。今まで自分は行動力がなく、思ったことをすぐに実行できなかつたりして後悔することが数え切れないほどありました。そこで海外研修に興味を持っていたので、思い切って応募しました。そして研修中も、どんどん思いついたことをすぐに行動に移し、後悔しないようにしようと決めました。

1つ目の「新しい世界を実感したい」という願望が叶い、自分はホームステイ研修中にアルカトラズというかつて刑務所として使われていた場所を見学しました。日本では絶対見られないし、アメリカ特有の文化やルールなどを肌で感じることができました。またアイスホッケーの試合もホストファミリーと一緒に観戦しました。アメリカのサポーターは熱い人が多く、そして“Thank you.”や“Excuse me.”が飛び交う本当に素敵な人たちでした。



2つ目の「自分を変える」というスローガンで、私は様々なことに挑戦しました。分からないことがあったら先生ではなく現地の人に質問したり、積極的に前に出て発言したり、今までの自分なら失敗を恐れてできなかったことを、研修中は幾度となく実行しました。もちろん会話しようと話しかけ、返ってきた英語の意味が分からず戸惑ったり、アメリカンジョークを言われても意味が分からず、真面目な顔でいたり、挑戦して失敗したこともたくさんありましたが、しかし後悔はありません。どれだけ勇気を出して挑戦することが大切か、この研修で一番分かりました。

発言や語彙、文法がとっさに出てこないという問題点も浮き彫りになりましたが、「挑戦」という意味を研修で学びました。「挑戦」とは、生きる上で、成長するきっかけを与えてくれるものであり、自分を強くしてくれるものです。

今回は海外研修という「挑戦」でしたが、次は常識に捕らわれない途轍もないチャレンジをします。



「HABATAKE ! 黒陵」

参加者数 生徒10名+先生2名

日程表【コンコード研修】

2019年3月22日

次	月日	都市名	時間	交通機関	行程		食事・宿泊ホテル
1	2019年 3月27日 (水)	北上駅	13:29発	新幹線	やまびこ48号にて東京駅へ (16:24着) 東京駅到着後、羽田空港へ モノレール (16:59着) 日本航空:002 出国手続き終了後、搭乗。 (飛行時間: 約9時間15分/時差: -16時間)	【サンタクルーズ】 H	昼食: × 夕食: 機内
		東京駅	16:34発	JR&モノレール			サンフランシスコ入国手続き
		羽田空港	19:45発	JAL-002	サンタクルーズへ 約2時間		
		サンフランシスコ空港	13:10着				
		サンタクルーズ	17:00着	専用バス			
2	3月28日 (木)	サンタクルーズ	9:15発	専用バス	9:30~11:30 <カリフォルニア大学コンコードよりAdrianさん同行> 11:40~12:40 <Adrianさん案内にてメキシカン料理> 13:00~16:00 サンタクルーズ海岸 メインビーチ、ミステリースポット	【コンコード】 H	朝食: ホテル 昼食: レストラン 夕食: レストラン
		コンコード	17:30着				
3	3月29日 (金)	コンコード	終日		朝食後 <コンコード:アンバサダーにて案内>	コンコード 【ホームステイ】	朝食: ホテル 昼・夕: ホームステイ
4	3月30日 (土)	コンコード	終日		~ホストファミリーとの休日~ <アメリカの休日を体験>	コンコード 【ホームステイ】	朝・昼・夕: ホームステイ
5	3月31日 (日)	コンコード	(11:30配車) 12:00発	専用バス	バス配車レストラン IHop Restaurant 4619 Clayton Rd, Concord, CA 94521 サンフランシスコ市内 (ゴールデンゲートブリッジ、フィッシャーマンズ等) ホテルチェックイン後: 自由行動	【サンフランシスコ】 H	ランチ: 招待会 IHop Restaurant
		サンフランシスコ	15:00着				
6	4月1日 (月)	サンフランシスコ空港	15:50発	専用バス JAL-001	出国手続き終了後、搭乗。 日本航空:001 便にて羽田空港へ	【機中】	朝食: ホテル 昼食: 各自
		羽田空港	19:00着		到着、帰国手続き羽田周辺のホテルへ	【東京】 JALシティ羽田 TEL03-5735-2525	夕食: 機内
7	4月2日 (火)	羽田空港	19:00着				
8	4月3日 (水)	東京駅	10:36発	新幹線	やまびこ47号にて北上へ		朝食: ホテル
		北上駅	13:33着				